

# 第9回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2020年3月30日発行

2020年2月13日に「第9回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

今回も商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢15名の方に参加いただきました。

今回の学集会ではまちづくり学集会において頂戴した意見をまとめるにあたり、事務局から学集会まとめ(案)と、阪急茨木市駅西口駅前周辺整備に関する取り組みについて説明がありました。その後、参加者でまちづくり学集会まとめ(案)等について、議論を行いました。

## ○ まちづくり学集会のまとめ(案)

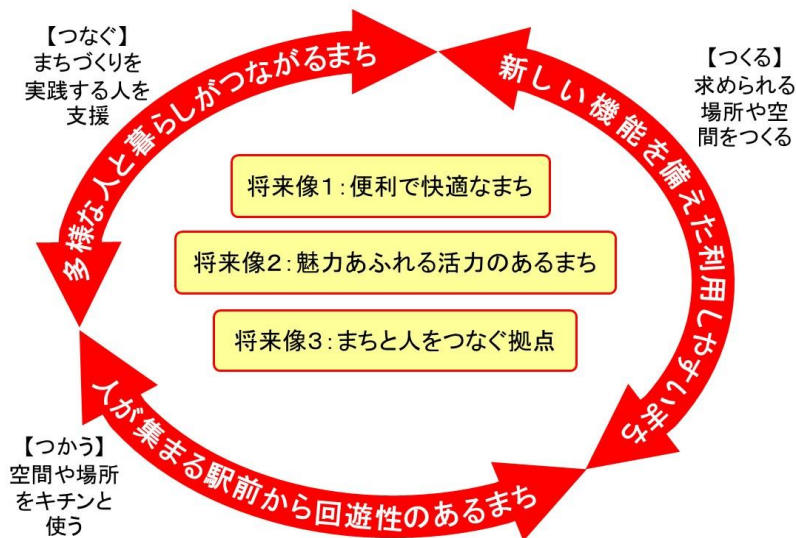
まちづくり学集会は2018年8月から今回を含めて計9回行ってきました。阪急茨木市駅周辺のまちの特徴や課題、将来像、賑わいや憩いのイメージの共有など、主にワークショップ形式により参加者から貴重なご意見を頂戴いたしました。以下はそのまとめ(案)の一部です。

### ● まちの現状・課題と将来に向けたまちへの想い

	現状・課題	将来に向けたまちへの想い
① 機能	<ul style="list-style-type: none"><li>● 中心市街地に交通機能や市役所、商店街等が集約され、生活利便性は高い</li><li>● 一方で道路渋滞や分かりにくいバス乗り場など、交通改善が必要</li><li>● 若い人や地域住民が集まる場所、子どもが遊べる場所などが不足</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 交通環境の改善により、歩行者や車両の安全性・利便性の向上</li><li>● 休憩・多世代交流・イベント開催など多目的に活用できる空間の創出</li><li>● 憩いや賑わい、子育て等に必要な機能の確保</li></ul>
② 商業	<ul style="list-style-type: none"><li>● 中心市街地の人口は増加しており、イベントをすれば人は集まる</li><li>● 魅力的・個性的な店舗が不足</li><li>● 商店街店主の高齢化、閉店時間が早い、休憩場所が少ない等、商業の中心地としての賑わいや魅力が低下</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 歩いて楽しいまちづくりの演出など全体のマネジメントによる回遊性の向上</li><li>● 魅力的・個性的な店舗が多い商店街などの商業地域があるまち</li></ul>
③ つなが	<ul style="list-style-type: none"><li>● 市民力が高く、イベントが多い</li><li>● 一方で組織ごとの横の繋がりは不足</li><li>● 駅前から中央公園までのつながりが不足</li><li>● 駅から商店街への経路も分かりにくく、駅と商店街のつながりが不足</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 駅から中央公園までの動線である商店街や中央通りで多様な活動ができる場所があり、地域交流や住民等とのネットワークにより、自分発信の人が生まれるなど、まちと人、人と人、人と活動がつながるまち</li></ul>

地域や暮らしをより良くするためには多様な方が力を合わせ、  
同じ方向性で取り組むことが重要

## ●まちづくり学集会で考える阪急茨木市駅周辺のまちの将来像



## ●まちの将来像を実現するために必要な機能

必要な機能	将来イメージ
憩い	<p><b>自然を感じられ思い思いに過ごせる広場</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広場を利用する各人が季節を感じたり、休憩、読書、イベント参加、音楽鑑賞、友人との待ち合わせなど、思い思いに過ごす広場</li> <li>歩くだけで気分が良くなる・楽しくなる街並み</li> <li>駅と商店街の動線沿いやビル屋上に広場（芝生）があると良い など</li> </ul>
賑わい	<p><b>生活に潤いを与える魅力的な空間</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>記念日や仕事帰りに遅くまで利用できるカフェや飲食店</li> <li>シニア世代がちょっとカッコつけられる、大人がデートできるお洒落なお店</li> <li>天候に関わらず音楽やダンス等のイベントが開催できる屋内広場</li> <li>イベントがなくても飲食等の利用ができる広場 など</li> </ul>
子育て	<p><b>地域ぐるみの子育て支援</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い年齢の子ども（未就学児～小学生）と一緒に利用できるカフェ</li> <li>子育てサロン等で学生が放課後や休日のお手伝い、子ども用イベント開催</li> <li>子どもが急に病気になった時でも対応できる施設（病児保育など）</li> <li>託児所付きの施設（レストラン・美容室など） など</li> </ul>

## ○まちづくり学集会まとめ（案）に対する久教授からのアドバイス

- 彦根では、「100の愚痴より10の提案、10の提案より1の実行」を合言葉にしている。できること、できそうなことについて、実行主体を意識しながら検討することが重要。
- 商店街のまちづくりは、一社でマネジメントする商業施設とは異なり、多くの方が関わっているため、皆が同じ方向に向かっていくか確認しながら進めていく必要がある。
- 茨木は消費するまちではなく、創造していくまち。キッチンカーや古い物件活用等、色々な人がチャレンジできるクリエイティブな仕掛け・装置をまちに組み込む必要がある。

## ○ 意見交換

2つのグループに分かれ、まちづくり学集会まとめ（案）や久教授からのアドバイスなどに対する意見交換を行いました。最後は各グループの代表者に発表していただき、参加者の意見を全員で共有しました。主な意見は以下の通りです。

### 茨木の魅力

- 「バイローカル」というキーワードが出たが、友人と話していても、茨木の店舗情報があまり知られていないと感じることが多い。もっとPRが必要。
- 茨木には魅力が点在している。その魅力をつないでいくことが重要。ウォークアブルシティにもつながる。
- 茨木は教育面の評価が高く、市外からの流入も多いと聞く。これは茨木の強み。

### まちづくりの実行主体・チャレンジ

- 「誰がやるのか」「意識の共有化」が大切と思う。
- 地域の方がまちなかでやりたいことをやる。それをうまく見せれば、若い学生や新しく住む人にも連鎖し、継続したまちづくりになる。
- 商店街には空き店舗が点在している。利用上の課題（家賃、大家との意思疎通など）が解決すれば、活用したい人は現れる。特に、若い人がそこを活用すると、若い人（客）が集まり、好循環が生まれる。最初は小さなチャレンジからが良い。
- 商店街の空き店舗など情報のネットワークを作り、新しいことにチャレンジしたい人に提供できないか。期間限定の少額家賃の小区画ブースでも、賑わいが生まれる。

### まちづくりの方向性・将来イメージ

- 将来像を実現するために必要な機能「憩い」「賑わい」「子育て」は共感できる。
- 駅周辺は、女性や子育て世代が自然と集まるまちをコンセプトに、病児保育など必要な機能を整備すると茨木の魅力になる。
- 将来イメージ（30年後のまち）は「誰目線で考えるか（自分・子ども達等）」で方針も変わってくる。
- 将来イメージ図のように、駅前や中心市街地に子育て世代など多世代が集まり、楽しんで暮らしたい。

## ○ 久教授からの講評

- まちづくりは活動の積み重ね。ポジティブにやり方や規模など実践できる方法を考えてほしい。それが色々なことの実現に向かっていくと思う。
- 茨木のまちなかの特徴は多様性。幅広い世代が利用し、店舗や住居があり、働く人もいる。この多様な要素を活かし、複合的につながっていくともっと魅力的になると思う。

次回の学集会は【未定】です。（コロナウイルス感染拡大防止に向け市主催のイベントを延期しているため。）

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp